

第4学年 道徳科学習指導案

指導者 北垣 大介

1 主 題 個性の伸長 A—(4)

2 教 材 「ぼくの名前」(兵庫県人権教育資料「ほほえみ」)

3 指導にあたって(児童数28名)

兵庫県における公立学校に通う外国人児童生徒数は3389名(令和2年5月1日現在)おり、その子たちが抱える課題は大きく分けて3つあると言われている。1つ目は、言葉の壁。2つ目は、生活習慣や文化の違い。そして、3つ目は、アイデンティティの育成である。3つ目のことに関して、本名使用率は小学校で全体の70.9%(1528名)、中学校は62.2%(539名)と決して高いとは言えない。

本学級の児童は、10月に行った人権アンケートで、「がんばったことやじまんでできた」という質問に対して全体の93.1%が「できた」と答えており、日々の生活の中で自尊心の高まりを感じる。2年生の生活科では、自分の生き立ちを知る学習を行った。その中で名前の由来について調べており、名前に込められた親の願いを確認することができた。しかし、現在、自分に自信が持てず、消極的になっている児童がいる。また、友だちに一方的にあだ名を付けてトラブルに発展する場面も何度か見られた。このようなことから、2年生で学習した「一人ひとりがかけがえのない存在である」という意識が希薄になっているように感じる。

本題材は、自分につけられた「二つの名前」を通して外国人としての自分を見つめ、本名を名乗ることの大切さに気づいていく「ぼく」の心情が描かれている。ベトナム人の「ぼく」は、生まれた時に両親がつけてくれたベトナムの「フィ」という名前と小学校に入る前につけてもらった日本の「秀樹」という二つの名前をもつ。入学してからも両親が心配するような一人ぼっちになることがなかった「ぼく」。2年生になり、ベトナム人の誇りである「ムーラン」に入ったことや名前の由来を知ったことから本名を名乗ることを決め、アイデンティティを確立するきっかけを掴む。自分の名前についての家族の思いや願いを考えさせ、一人ひとりがかけがえのない存在であることに気づかせることができる資料である。また、異なる文化や生活習慣、価値観に対する理解を一層深め、すべての人と共生していこうとする態度を育てることができる教材である。

指導にあたって、導入時に、知っている世界の国を発表させ、学習への関心を高めさせたい。その上で、「世界とであうえほん」(出版:PIE international)の一部を読み聞かせし、世界にはさまざまな人がいて、それぞれに文化や伝統があることを伝える。次に、2年生で学習した自分の名前の由来について振り返る時間を設ける。家族の思いや願いを思い出させ、一人ひとりがかけがえのない存在であることを思い出させた上で本教材を取り上げる。本教材では、まず「ぼく」の日本の名前について考えさせ、ぼくを心配する家族の思いや願いに気づかせる。次に、「ぼく」がなぜ本名を名乗ろうと決めたのかについてせまっていく。その中で、周囲の理解が大きく影響したことに着目させる。そして、ぼくの心の葛藤について考えさせ、名前が自分の存在を表す大切なものであることに共感させたい。この学習を通して自分を肯定的に捉え、力強く生きていくことの大切さに気づかせたいと考えている。また、この学習がきっかけとなり、誰もがかけがえのない存在であることを意識し、更に自他を大切にできるあたたかなクラスになることを願っている。

4 本時の学習

(1) 目 標

- ・名前は自分の存在を表す大切なものであることに気づき、自分自身を肯定的に捉えようとする心情を育てる。

(2) 人権教育の内容 自尊感情の形成 1—(2)—ア

(3) 展 開

| 学 習 活 動 | ・指導上の留意点と支援 ○評価 |
|--|---|
| <p>1 知っている世界の国を発表する。</p> <p>2 自分の名前の由来について発表する。</p> <p>3 資料を読んで、「ぼく」につけられた「二つの名前」について考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 発表後、「世界とであうえほん」を紹介し、世界には様々な国があり、その中でいろいろな人がいること、伝統・文化があることを簡単に紹介する。 2年生の時に学習したことを思い出させ、一人ひとりがかげがえのない存在であることに気づかせる。 |
| <p>「ぼく」には、なぜ「二つの名前」があるのでしょうか。</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ベトナム人が一人だったら心配だから いじめられるかもしれないから <p>4 ベトナムの名前にもどすことに決めた「ぼく」の気持ちについて考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 日本の名前がつけられた理由を考え、ぼくを心配する家族の思いや願いに気づかせる。 |
| <p>「ぼく」は、なぜベトナムの名前にもどそうときめたのでしょうか。</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> 一人ぼっちではなかったから ムーランのしっぽに入ったから お母さんが喜んでくれたから ベトナムの名前の意味がわかったから 心を込めてつけてくれた名前だから <p>5 ベトナムの名前にもどしてからの「ぼく」の生き方について考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 周囲の理解が大きかったことに着目させる。 ぼくの心の葛藤について考えさせ、名前が自分の存在を表す大切なものであることに共感させる。 自分を肯定的に捉え、力強く生きていくことの大切さに気づかせる。 自分の名前に誇りをもって生きていこうとするぼくの思いに共感し、自他を大切にしようとする意欲や態度を培う。 <p>○ 名前は自分の存在を表す大切なものであることに気づき、自分自身を肯定的に捉えようとしていたか。</p> |